



わだ けいこ
和田 恵子さん(榎生)

身近なところで貴重な土器が発見されたことを知りました。文化財で市が活性化できるとうれしいです。

みなさんは、下館駅の北口と南口を結ぶ歩道橋の上にあるモニュメントをご存知ですか。このモニュメントは、市内女方^{おむすね}にある女方遺跡^{むすねのひら}から発見された弥生時代の人面付壺形土器^{ひとのおもて}をかたどったもので、平成3年に同友クラブが創設30周年を記念して



下館駅前歩道橋にある人面付壺形土器モニュメント

太古の生活に思いを馳せて〜 世紀の発見「人面付壺形土器」

鬼怒川東岸の台地にある女方遺跡。ここで弥生時代に関する歴史的な発見がありました。

設置しました。実物は東京国立博物館に所蔵され、昨年7月から9月まで開催された特別展「縄文1万年の美の鼓動」でも展示されました。

私もこの特別展で実物を見るのができ、とても感動しました。今回は、歴史的にとっても貴重な人面付壺形土器について、市の文化課にお話を伺いました。

■ 女方は古墳密集地域だった

女方地区一帯からは、縄文時代・弥生時代の土器や石器などが見つかっており、古墳時代には多くの古墳が造られたようです。

現在では、神明塚^{しんめいづか}、猫塚^{ねこづか}、弁天塚^{べんてんづか}の3基しか残っていませんが、以前は日月塚^{にげつづか}、十二天塚^{じふにてんづか}、八幡塚^{やっぺんづか}など「女



人面付壺形土器の頭部。非常に精密に顔面が表現されています(筑西市所蔵の複製品)。



女方遺跡で出土した人面付壺形土器(東京国立博物館所蔵)

方六十八塚」と呼ばれるほど古墳が密集していました。



人面付壺形土器を発見した田中国男氏。3年間かけて女方遺跡の発掘調査を行った(『縄文式弥生式接触文化の研究』より)。

■ 人面付壺形土器は骨壺？

人面付壺形土器は、医学博士田中国男氏^{たにが}によって、昭和14年から3年間かけて行われた女方遺跡の発掘調査で発見されました。

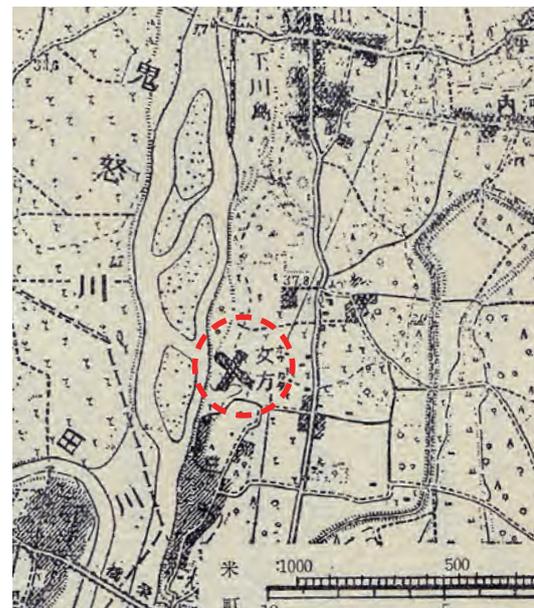
この土器は、弥生時代中期(約2300年前)のものと考えられています。壺の高さは69.5センチ、目、鼻、口、顎^{あご}が粘土で表現され、目の口の周囲には線で隈取り^{くまどり}がされています。この隈取りの一部は、赤色の顔料が使われていることから、弥生人の入墨^{いりすみ}を表現しているのではないかと考えられるそうです。この土器の内部には、装飾品の管玉^{くだたま}3個が入っていました。

人面付壺は今でいう骨壺の役割を果たしていたと考えられていて、女方遺跡から発掘された土器も、このような用途で使用されていたのかもしれない。

■ 歴史のロマンを胸に

私は考古学に詳しくありませんが、東京国立博物館に所蔵されるような貴重な土器が、筑西市で発見されたことをとても誇りに思います。

また、女方遺跡で発見された土器と同様のものが、県内や栃木県の遺跡からも発見されています。それらの文化財を地域おこしなどに活用している事例もあり、筑西市でも土器の愛称を募集してPRしたり、土器の形のお菓子を販売したりして、土器を利用したまちづくりができればうれしいです。尽きない歴史への思いとロマンを胸に、筑西市で、また新たな発見があることを期待しています。



発掘調査が行われた当時の女方遺跡(赤田み)周辺地形図。南側に鬼怒川にかかる榮橋が確認できます(『縄文式弥生式接触文化の研究』より)。